

土から生まれて土に還る。



このところにわかに、テレビなどで「SDGs」が頻繁に取り上げられるようになりました。日本ではなかなか認知度が上がらず、自分ごととしてとらえる人が少なかったSDGsですがこれからぐっと機運が高まりそうですね。

企業がSDGsへの取り組みを積極的にアピールするようになり、個人としてもサステナブルな価値観を重視する人が増えるにつれ、「大量生産→大量消費→大量廃棄」の象徴のようなアパレル業界の動向にも注目が集まっています。

これまでもリユースやリサイクルは行われてきましたが、それもやはり最終的には「廃棄＝ゴミになる」を前提にした考え方。もっと本質的にサステナビリティを考えたとき、求められるのが「循環型社会」への転換です。

つまり、これまでのような「作る→使う（→再利用する）→捨てる」という一方通行ではなく、「作る→使う→再資源化する→作る→使う……」という繰り返し（循環）で資源やエネルギーを“捨てない”社会や暮らしを目指すもの。「サーキュラーエコノミー」とも言われます。

捨てずに資源化して再び製品化する、というアクションは、既にアパレル業界でもさまざま展開されるようになりました。

そして実は、ちょっと違った視点で
循環=サーキュレーションを実現しているのが
キュアテックスの和紙繊維です。

土から生まれて土に還る。
まさに究極のサーキュレーションと言えるのではないのでしょうか。

野山に生え育つ多年生植物を原料とするところから始まる循環は、
和紙となり、糸となり、繊維製品となって使われたあと、
土に埋めることで生分解してなくなる、つまりは土に還り、
サステナブルな自然のサイクルと一体化します。

キュアテックスの和紙繊維は
農業用資材として土壌改良にも使われる素材ですから、
プラスチックや化学繊維と違って環境を汚さないのはもちろん、
微生物の棲みやすい環境を作り、肥沃な土を作るのに役立つほど。

アパレル×農業。

ひとと自然を大切に考え、
サステナブルな取り組みを進めるキュアテックスならではの、
これからの循環型社会を先取りする掛け算です。

さて、2020年も残すところあとわずか。
未知のウイルスとの闘いという不測の事態に
不安や我慢、苦労が多かった一年。
大人も子供も、みんながんばりましたよね。

はからずも「新しい日常」という扉を開けることになり、
まだまだ戸惑いの中にある年の瀬ですが、
だからこそ、来るべき年への期待が高まります。

今年一年、ありがとうございました。

みなさま、どうぞよいお年をお迎えください